

帰山議員

文化遺産等の認定保存基準等について

問近代化産業遺産の保存整備について、条例の制定等を含め方針を問う。

答近代化産業遺産は、国の近代化を支えた建造物や機械、製造品、文書等、多様な物件を対象としているが、保存についての強制力も少なく助成制度がないのが現状。

市の近代化産業遺産は、平成19年度に認定を受けたが、その中には松文旧女子寮や東野東吉機業場など市の文化財指定を受けていないものがある一方で、ゆめおーれや旧中尾発電所第1号発電機などのように市の文化財指定を受けているものもある。

今後の市の近代化産業遺産の取り扱いについては、条例等の整備も含め新たな枠組みのあり方を調査研究していきたい。

子供達の育成方針について

問再編に至る要因となった課題について見解を問う。また、義務教育以降の支援を考えるべきではないか。

その他の質問
・道路維持管理計画について
・スポーツイベントの計画について
・消防広域化の状況について

答生徒数の減少による、部活動や専門教員配置などの問題点はある

が、各学校ともに小規模校の利点を活かしながら頑張っている。しかし課題は内在しているため、当面の補完的な対応策をできるだけ早く講じられるよう尽力していきたいと考えている。例えばジュニアクラブの充実・普及への取り組みと、そのための支援方策も検討していく。

また義務教育以降の支援については、どのような支援が必要かつ効果的で実施可能かなど、国の教育制度改革も睨みながら、今後の研究課題とさせていただきます。



松文産業 旧女子寮

倉田議員

勝山市の農業の担い手について

問勝山市の農業にとつての最重要課題は、農業の担い手の確保である。農業生産法人、集落営農組織、認定農業者の現状と10年後の状況について伺う。

また、農業の担い手の育成・確保のために、どのような取り組みをしていくのか伺う。

答現在、認定農業者の法人組織は10組織、任意の集落営農組織は18組織、個人の認定農業者は41名。10年後を想定するのは困難だが、第5次総合計画では担い手への農地集積割合を現在の54・2%から平成32年度までに66%とするとしている。

現在の担い手の規模拡大や新たな営農組織の設立には、市や農業公社など関係機関が連携し支援していくことが必要であると考えている。また田舎暮らし体験事業や食育関連事業を通して市内外からの新規就農者育成を継続すると共に、他市の事例を調査研究してまいりたい。

その他の質問
・農業施策について

災害時ボランティアの事前登録制について

問東日本大震災直後には、市からボランティア募集があり参加したが、その後、自主的にボランティア活動をしようとしたときには、情報が得られず苦労したと聞いている。

ボランティア活動に参加する意思のある方を事前登録しておくと共に、災害発生時から期間が過ぎても、自主的にボランティア活動をされる方へ情報提供ができるようしておくことが必要だと思いがどうか。

答災害時ボランティアを効率的かつ円滑に推進するための組織づくりは、市としても大きな課題であると認識している。市には防災士養成講座などにより約180名の防災士がおられるが、その方々の協力を求め、関係機関と連携し、組織の早期立ち上げに向けて研究していく。



集落営農組織による里イモ栽培